

2022年度 学校評価（自己評価・関係者評価）報告

学校評価にかかわる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の改正に伴い、評議員会にて行っていた自己評価を今年度より学校関係者評価委員会を開催（書面）し自己点検評価をまとめましたのでホームページ等で公表いたします。広く皆様からのご指導を賜り、さらに幼児教育の理想に向かっていくための評価といたします。

I. 本園の教育目標

「主体的に生きる」

1. 子どもたちにとって、かけがえのない「幼児の日々」をゆっくり、大切に見守ります。
2. 子どもたちの生活＝「遊び」。その中で様々な経験をし、自立する力、社会性、想像力の育ちを支えます。
3. ご家庭の豊かな愛情、先生やお友だちとの深い交わりの中で、自分が大好き！まわりの人も大好き！ともに成長できる心を育みます。

II. 本年度重点目標と取り組みと評価

A. 重点目標

1. 日本 YMCA の理念・使命、東京 YMCA の方針・目標を基盤に、江東 YMCA 幼稚園 の想いの実現のため幼児教育を追求する。
2. 日々成長する子どもたちの為に、コロナ禍であっても工夫をし、出来る限りコロナ禍前と変わらない教育環境を整える。
3. 人的環境としての教師の在り方を研究し実践に繋げる。
4. 2歳児対象の、預かり保育とイベントクラスの発足。
5. 子育て支援を目的とした朝8時からと、夕方17時までの預かり保育の発足。

B. それぞれの取組状況と評価

1. 新入職員を加え、年度初めに改めて日本 YMCA の理念・使命、東京 YMCA の方針・目標を確認し合い、江東 YMCA 幼稚園の想いをしっかりと心に刻み新年度をスタートした。月ごと、学期ごとの教師会、日々の保育の振り返りなどで園児一人ひとりの成長を確認しながら1年間教育を進めてきたことで、教職員が一致した保育感で子どもたちと共に過ごすことが出来た。

2. 子どもたちの成長はコロナ禍であっても無くても成されていく。
子どもたちの成長に不可欠な教育として年間を通しての行事及び年間計画を作成している。豊かな経験から多くの成長が成されるとの想いに重点を置き、教育を行っていることから今年度も行事や年間計画を考える時、「コロナ禍だからできない」の選択をせず、「どのように考え環境を整えることでねらいに沿った豊かな経験が出来るか」を教師全員で工夫し、実践した。
コロナ禍3年目の今年度、昨年、一昨年より緩やかになった規制に甘んじることなく、更なる園内での感染対策を徹底し日常の教育を行った。園内から感染者が出ることはなく園内で感染が広がることも無かった。
3. 園内研修に KJ 法を取り入れ、人的環境としての教師の役割について少人数グループでディスカッションを重ねた。それぞれの教師の考えや想いを共有し理解し合えたことで、実践に繋げることができた。
4. 週3日間、2歳児の預かり保育（2時間）。保育方針は幼稚園と変わらず一人ひとりの想いを大切に、経験を通してゆっくりと学び合う。園庭で年少・中・長と異年齢の交わりもあり、次年度の園生活に繋がっている。
イベントクラスは親子で週替わりの体操・リトミック・ヨガを楽しんでいただき、幼稚園を知っていただけた。
5. 子育て支援を目的とした預かり保育をスタートしたことで、仕事を始められる保護者もあり、時代に沿った対応が出来た。

C. 江東 YMCA コミュニティーセンターとの一体化

世界をみつめ、地域に根差す江東 YMCA 幼稚園として、こどもを中心にしたコミュニティー創設のための働きを行う。ウクライナ YMCA に励ましの絵画やビデオを送りウクライナの戦禍の中にいる子どもたちからお礼が送られ交流することができた。国際協力募金ではバングラディッシュのこどもたちへの識字教育を支援、近隣の都立木場公園のチャイルドガーデン（チューリップの球根植え）など、一体化した地域社会の実現のために発信していく幼稚園を目指した。

D. 預かり保育の実施（新2号認定対応 8時～17時）、2歳児クラスの充実など、保護者一人ひとりのニーズに寄り添う更に開かれた幼稚園を目指した。

E. 教職員の質の向上。OJT研修とチームでの連携指導体制を構築した。

日々の職員会での各クラス園児一人ひとりの振り返りを共有する。

「江東区」「キリスト教保育連盟」「都私幼連」「東京 YMCA 教育保育事業部」の研修や幼稚園独自の勉強会に参加する。

F. 将来展望職員会と将来構想小委員会の設置

1. 現職、前職の園長と館長、学院職員による短期的な展望計画を立てた。
2. 理事・評議員、有識者を加えた将来構想小委員会を立ち上げた。
3. 2023年度に中期計画を立て子どもたちにとってさらに充実した教育保育環境を獲得できる園を目指す。

III. 総合的な評価と今後の課題

A. コロナ禍にあっても、感染予防をしつつ保育実践や園行事は中止せずに開催できた。

1. 1日もコロナによる休園日を出さずに幼児教育・保育活動を行うことができた。
2. 一昨年度の入園式は2回に分け分散開催で行い、昨年度、今年度は感染防止につとめて時間を短縮し、新入園児及び保護者、教職員、全員で行うことができた。
3. 親子遠足は近隣の公園にお弁当を持って出かけた。昼食は距離を取って親子で黙食をした。
4. 近隣の町会、交番、園医、お世話になっている地域の方々に花の日（6月1日）に感謝の花束を持って訪問した。年長クラスで分散して訪問した。
5. 運動会を小学校グラウンドではなく、より広い千石グラウンドで時間を短縮し食事はしないで開催した。大人の綱引きは今年度も取り止めとしたが、未就園児プログラムは行うことができた。
6. バザーは模擬店を出店するがその場で飲食はせず、テイクアウトのみとした。
7. 八ヶ町運動会を東京 YMCA 江東コミュニティーセンターと協働して開催のお手伝いをしてきたがコロナ禍のため中止とした。
8. お楽しみ保育（幼児教育・組織キャンプ）を2泊3日で実施、年長組の全員が参加することができた。また、大学生がボランティアリーダーとして、子どもと関ることが特徴である。

B. 保護者会、後援会でも以下の行事を行う（予定含め）ことができた。

1. 虹の会マルシェは時間を短くし、入れ替え制にして行った。
2. 2月、保護者の会主催で講演会を行った。
3. 子育て講演会（オール東京 YMCA の活動として）はオンラインにて実施。

C. 安全対策

1. 扇橋小学校と合同の防災避難訓練は今年度も叶わなかったが、小学校の体育館まで避難をする訓練は扇橋小学校のご協力により行うことができた。（幼小の連携、津波対策など）
2. 様々な状況（火災・地震・津波など）に対応できるよう、月に一度、避難訓練を実施した。

D. 園児募集

1. コロナ禍で来園型の説明会は人数制限をした、体験会では来園されて園内・園庭でそれぞれの想いを持ち活発に外遊びを楽しむ姿、砂場で存分に砂遊びを展開する子どもたちの楽しそうな様子を見て入園を決めてくださる方が多かった。
2. 2016 年秋より預りクラス（くまっこクラス）を始めている。
3. 2022 年の本年6月より2歳児クラス（つくしぐみ）、2歳児親子クラス（こあらぐみ）を始めた。

IV. 学校関係者評価（各委員からの評価）

○在園保護者 A 氏

「2022 年度自己評価（関係者評価）報告」について、異論はありません。

コロナ禍でありながらも少しずつ、行動制限が緩和されてきた今年度、各種行事が少々コンパクトにしながらも、子ども達が楽しめる形でコロナ前とあまり変わらず行って頂けてとても有難かったです。

また、マスク着用についても国の動向に合わせ、すぐに園内でのルールを緩和していただきマスクが苦手な息子も無理なく快適に園生活を楽しめています。

こども達だけでなく、保護者の活動について今年度はオンラインではなく集会形式でイベント等を行うことができ、保護者間のコミュニケーションをより円滑に進める事ができました。学年間での交流も図る事ができた為、コミュニティとしての結束を一層強く出来た一年でした。

今年度からは、預かり保育と2歳児クラスがスタートし、より多くの方が江東 YMCA 幼稚園の保育に触れることができる体制が整った事を嬉しく思います。預かり保育が初年度ということもあり、あまり多くない事も影響もあるかもしれませんが、保護者間でもトラブルなく一年を過ごすことができています。

ただし、来年度以降、働くお母様の増加に備え、保護者の係の仕事の負荷や量を見直す事、色々な価値観を持った保護者が皆、快適に園生活（保護者の活動）を楽しめるようにする為の環境整備が急務だと考えます。

今年度より入園した息子は言葉が遅い子でしたが、先生やお友達からたくさんの刺激を受け、今ではスラスラと話しお友達とコミュニケーションをとる事を楽しんでいます。改めて先生方のお力やこどもの小さな社会の力を痛感させられました。いつもマイペースにひとりでフラフラと遊びに行ってしまう息子が幼稚園で習った歌を歌い、お友達と楽しそうに踊ってくれた運動会を見て、自分の小さな社会が息子にできた事ととても嬉しく思います。強制されるのではなく、こどもが主体的に「心」から動けるように見守り導いてくださるので、誰かの言いなりではなく、自分の主張できる子にこの一年で大きく成長しています。先生方のご尽力があったからこそと感謝しております。コロナに係る対応も保育

スタンスもすべて「こどもファースト」で、この幼稚園に通う子は幸せだなど、いつも思います。

○在園保護者 B 氏

1. 良かった所

a. 日々の保育

コミュニケーションをとりながら成長していく事を大切にし、自分の気持ち、相手の気持ちに自然と気づけるように、保育者が関わっている。良い面だけでなく、悪い所も全て受け入れて下さり、子ども達がのびのびと過ごせる環境を整えて下さっている。(手が出てしまう子も、お話しを座って聞く事が出来ない子も、色々な良い所があると、ちゃんと分かって下さる。マイナスに見える行動だけにフォーカスしてその子を決めつけない。)

生きるという事は、自然と共にある事を、園内の装飾や、使用するおもちゃ、季節の行事などを通して、子ども達が当たり前を受け入れていけるように配慮されている。

幼児期に身につけたい日常生活行動や社会性について、強制せず、その子自身が身につけるタイミングに合わせて手を差し伸べて下さる。(トイレ、着替え、食事のマナーにはじまり、列に並ぶ事、静かに話を聞く事、災害時の訓練や、舞台に立って自分たちの成果を見せる所までが、本人の無理なく進められている)

b. 園生活全体

様々なライフスタイルの方が通園できる環境を整えていくように準備されている。他団体との連携も盛んで、子供たちを様々な方が支えて下さっていると感じる。また、卒園後も園に来る機会を作って下さり、地域で暮らす中で子供たちの拠り所となっている。何より子供たちが毎日楽しく通い、限られた大切な幼児期に、温かく幸せな時間を過ごす事ができて、親も子もかけがえのない日々を送る事ができる素晴らしい園だと思う。

2. これからの課題

a. 園舎の老朽化が目立つ。

色々な場所の壁や床のひび割れ、床の凹凸やタイルの剥がれ、駐輪場の凹凸など。

ベビーカーや車椅子に優しい作りとは言えず、下の子が酸素ボンベを使いながら送迎していた時に、とても大変だった。(費用は嵩むが) 事務所棟にはエレベーターがあると、良いと感じる事が多い。高齢の方、身体が不自由な方や、妊娠中の方、ベビーカーを利用している方が、危ないと感じる場面も多かった。

b. 未就園児を連れて行けない行事がある。

年に5回程度(誕生日、親子遠足、ペンテコステ礼拝、バザー、クリスマスなど)あり、保護者の活動も合わせるともっと多かった。どれも終わってみれば、良い思い出であったが、兄弟のいる家庭は大変だと感じた。

○在園保護者 C 氏

教育現場としてコロナ禍で様々な制限がある中でも、何とかして子ども達に豊かな経験をさせようと知恵を絞り実行する様子が見られた。

子育て支援および 2 歳児の預かり保育の発足は待望していた保護者もあり、今年度実現できたことは大変良かった。もっと早期に実現できていれば更に良かった。

保育に於いては、教員が子ども一人ひとりの個性を尊重し、子ども自身が考え行動し成長していくのを急かさず見守っていた。その中で過ごす子ども達も、違いを個性と捉えお互いを尊重し合う心が育まれた。

園生活全体を通して、子どもにとって何が大きかを軸に意思決定する園の姿勢がよく伝わってきた。教員間での情報共有や連携もよく取られており、不安なく過ごすことができた。

○在園保護者 D 氏

子ども 2 人、5 年間お世話になっています。幼稚園に入って、はじめての担任の先生から「心の根っこを育てる」という言葉を聞きました。①困っている人を助ける事。②自分の意見を持ち、それを相手に伝える事。③自分が好きという気持ち。(自己肯定感)これから、生きていく上で、とても大切だと思います。小学校からは、勉強がはじまるので、幼児期はこのような環境で過ごせたことを大変嬉しく思っております。二人とも幼稚園がとても大好きです。

また、コロナ禍でも、できる範囲でイベントを開催して頂いたことを大変嬉しく思います。マスクの着用も早い段階で、つける子、つけない子の意志を尊重した判断をして頂いたことに感謝致します。

改善点ですが、園の設備についてです。階段のコンクリートに、ひび割れがあり、安全面が気になります。こどもの安全のため、長期休暇中などに、修繕して頂きたいです。以上、よろしく願いいたします。

○在園保護者 E 氏

本年度も、園の教育目標である「主体的に生きる」の言葉通り、子ども達一人ひとりの想いに寄り添い、尊重し、成長を支えてくださった。集団としての基準に無理に合わせることなく、子ども達それぞれの性格、成長にあった方法で保育をしてくださった。

また「自己評価」に記載のあるように、その成長を担当の先生の心だけに留めるのではなく、周りの教員の方々とも共有して下さっていることも嬉しく思う。

本年度の重点目標の一つでもある「工夫をし、できる限りコロナ禍前と変わらない教育環境を」に関しても、ただ行事をやめるのではなく、子ども達のために「どうやったらより安心安全に開催できるか」を常に考え工夫して下さり、その結果子ども達は行事ごとにまた一つ新たな経験が増え、成長に繋がった。

2 歳児対象の預かり保育やイベントクラスの認知度にはまだ課題が残るが、本年度の途中から開始したInstagramにより、園の保育の日常の様子や、働くお母様の子育て支援を目的とした様々な新たな取り組みも、園外に向けて広くスピーディーに発信することができつつあると感じる。

○卒園児保護者 F 氏

園の教育目標「主体的に生きる」について、子どもたちの主体性を育むために更に具体化された目標を適切に設定できている。

また、本年度の重点目標については、コロナ禍においても日本 YMCA、東京 YMCA の理念や方針に則ったうえで、地域に求められる保育を園の幼児教育における想いの中で追求するように設定され、実際に様々な点において最善の取り組みを行っている。特に本年度においては、変わり続けるコロナ禍の状況に柔軟に対応しながらも、確実に感染対策に取り組み、安全な環境の中で子どもたちの成長に合わせた豊かな体験を多く実施することが出来ている点と、地域の様々なニーズに合わせた新しい取り組みをスタートしたことにより、子育て支援も充実させている点で高く評価できる。

コミュニティセンターとの一体化についても、地域コミュニティ創設の場として役割を担っていると適切に評価されている。教職員の質の向上について、継続的な向上が図られていると評価できる。将来展望職員会については、今後園にもたらす効果に期待する。総合的な評価では今後の課題を踏まえた取り組みが挙げられている。

○学識経験者 G 氏

1. 教育目標に則り、幼児一人ひとりを大切にした教育の推進に努めていた。
2. 教師の研究する努力と児童に寄り添った実践が豊かな成長に結びついていた。
3. 預かり保育は保護者の信頼を得て、すばらしい成果につながっていった。
4. 幼児教育の困難な時代ではあるが、YMCA の理念を忘れずに前進することを願っている。

○地域関係者 H 氏

1. 幼稚園の教育方針を基に教職員は子どもたち一人ひとりに丁寧に関わっていることが伝わってきた。教員は様々な研修などにも参加し、学び得たことを実践に結びつけるために努力している。
2. 新型コロナウイルス感染と共存しながら園での様々な行事も工夫をし、安全で有意義な活動がなされている。
3. 時代は変化しており共働き家庭のお子さんも多いようだが、保護者との関りは、しっかりと行われているようで保護者からの信頼も厚い。
4. これからも YMCA の総合力を生かして、地域と一緒に歩いてほしい。

江東 YMCA 幼稚園に関わる方々からご忌憚のない評価を頂戴し、心から感謝申し上げます。皆様から多くのご理解をいただいていることに有難く、教職員の励みとなりました。またご指摘・ご提案に関しましては真摯に受け止め、改善策を考えてまいります。

既に、保護者の方々にご所属いただく「虹の会」に関しましては、子育て支援の預かり保育を更に充実させる来年度に向けて、係の仕事の負荷や量を大幅に見直し、どのような状況の保護者の皆様にも「虹の会」の活動にご参加いただけるよう、2022 年度虹の会で改善が成されました。これからも保護者の皆様の活発な活動が、幼稚園のお支えと、子どもたちの為の活動に繋がることを願います。

多くのご指摘をいただきました園の設備の見直し、老朽化につきましては子どもたちの安全な環境を整える観点から優先順位を定め、修繕計画を立て、具体的に着手し進めております。また、長期計画に基づき大型営繕にも計画的に努めて参ります。

今後とも皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子

以上